

「紅顔月ヲ傾ケ快愉極リナシ」東京専門学校生徒の日記

1886—1888

——2016年度篠田ソノ子氏寄贈篠田克己旧蔵資料「在京国誌」——

大江洋代

学校史・大学史にとって学生が残した資料にはどのような意味があるのでしょうか。

それは大学側が作成した法人文書を補完するという副次的意義にとどまらない。その大学にしかない個性、すなわちその「大学らしさ」を法人文書同等に、あるいはそれ以上に語りうる資料こそが学生が残した資料である。

法人側が作成した資料からは「大学側の学生への向き合い方」が読み取れる。これに対して学生の作成資料は「大学側の学生への向き合い方」を「受け止めた学生のあり方」が読み取れるといえよう。そして「大学側の学生への向き合い方」と、それを「受け止めた学生」によって作られた相互性にこそ、その大学のみが持つ個性、本学では「早稲田らしさ」が浮かびあがるのではないだろうか。

すなわち早稲田の学生や卒業生が体現している「早稲田らしさ」は早稲田の教育がもたらしたものであり、学生の作成した資料は「学校側から観た歴史」と「学生から観た歴史」を架橋し、包摂するものとなろう。ゆえに個性が強

く、また社会的影響をもった大学であればあるほど、各大学が「大学らしさ」を考察する際に、また社会に発信していく際に、学生自身が作成した資料が重要になってこよう。

本年度の資料紹介では、このような「早稲田らしさ」を体現する意義を持つと考えられる学生作成資料を取り上げたい。それは本学の前身東京専門学校草創期に在学した生徒の日記である。本資料は生徒の目から見た草創期の東京専門学校校内の雰囲気や余すことなく伝える日記である。すなわち「早稲田らしさ」のはじまりを追うことが可能な資料としての位置づけを持つものと考えられる。なお同時期の東京専門学校生徒の日記には堀内七十郎の日記（特別資料2005-13(6)「懐中日記」）がある。こうしたそれぞれの生徒の日記に描かれた早稲田のかたちについて、ゆるやかな重なりがあるとすれば、そこから「早稲田らしさ」の源流をたどることができよう。

さて、本資料は日記執筆者の孫に当たる方から、二〇一六年に大学史資料センターに寄贈されたものである。

この日記を書いたのは篠田克己。寄贈者からの情報と日記の記載を総合すると、克己の履歴は以下になる。福岡県夜須郡甘木村に生まれ、秋月小学校、長崎中学校、福岡師範学校を経た明治十九（一八八六）年十二月、故郷を出て東京を目指した。着京後の明治二十年一月に東京専門学校法律科に入ることを決め入学、二二年に卒業した。その後故郷へ帰り、甘木郵便局三代目局長などをとめた。克己は出郷以来、矢立を常に持ち歩きながら、日々の所感を書き留めていたという。

日記は現在、二冊残されている。

一冊目（資料番号1「日記」）は、二つの時期の日記により構成される。前半が、明治一九年二月一五日に故郷（現在福岡県甘木市）を旅立つ朝から書き起こされ、船や人力車、鉄道を乗り継ぎ、東京に落ち着く一二月二五日までの旅行記である。後半が明治二二年七月二八日から八月一五日までで、卒業式を終えて休暇を故郷で過ごした際の滞在

記である。

二冊目（史料番号2「在京国誌」）は、明治二十年一月一日から二十一年七月二六日までの日並記である。着筆の明治二十年一月一日とは、克己にとつて着京してはじめての正月を迎えた日である。その後、明治二十一年七月二六日、夏期休暇で帰郷する直前までが記載されている。

日々の出来事に対する記載は詳細で、克己が珍しく感じた出来事が生き生きと書き付けられている。「愉快」や「快愉」という表現が散見され、克己が東京専門学校での生活を心底楽しんでた様子を今に伝えるのである。

演説会、卒業式、運動会といった学校行事は熱を込めて詳細に活写される。酒宴を好む。東京府下の祭礼、競馬、相撲、天皇奉迎などのイベントには勇んで駆けつける。季節の繊細な移り変わりに気がつく。剣術の稽古も欠かさない。よく勉強する。入学した年は「法律部三四番中七番」（明治二十年七月一九日）の成績をおさめている。また秘密出版事件のさい、同級生や先輩が次々拘引され、学内が緊張感に包まれた瞬間も書き残している。克己の幅ひろい好奇心と筆力によって、草創期における東京専門学校の生徒の変化に富んだ日常がよみがえってくるのである。

なお付言すれば本日記は東京専門学校に関する歴史研究に資するだけではない。克己の記述は東京専門学校における日常だけでなく、江戸から東京へ移り変わる都市の風景や、「上京熱」のなかにあつた明治二十年代前後における東京府下の学生群像までも写し取っている。また在京学生における故郷の意味、東京府下における濃密な旧藩ネットワーク機能に関する詳細な記載もある。教育史、都市史や文化史研究にも資するものであり、あらゆる分野の研究者の目にとまることを望みたい。

以下では「〔日記〕」（資料番号1）の冒頭部分と、「在京国誌」（資料番号2）の全文を翻刻する。旧字は新字に、変体仮名はカタカナになおした。句読点は適宜付した。特殊な漢字の用法は初出のみ（ママ）と記した。■は虫損、□

は判読不能文字を示す。

翻刻に当たっては松谷昇蔵氏（早稲田大学大学史資料センター非常勤嘱託、早稲田大学本庄高等学院非常勤講師）の助力を得た。

〔日記〕（資料番号1）

25_{チセン} × 19_{チセン} × 7_{チセン} × 1_{チセン} × 1_{チセン} 和綴

茲時明治十九年十二月十五日（旧ノ十一月廿日）ナリ。兼テ宿望ノ東京発途ニ就ケリ。本日ハ時候柄トテ兩三日前ヨリ雨天続キニテ早天ヨリ降雪非々トシテ絶ヘス。親戚近隣所謂見立ナルモノ朝来踵ヲ接シ各一品ヲ送テ祝意ヲ表ス。之ニ対スル見立ノ一宴ヲ開キ午前十時漸ク発足ノ途ニ就ケリ。蓋シ甘木ノ習慣トシテ遠旅行ニハ必ス自家ヲ去テ甘木川辺迄見送り、発足ノ際ニ一杯トテ同河辺ニテ数杯ヲ傾ケ別離ノ途ニ上ル。本日ハ雪天寒風強クシテ河辺ニ飲ム能ハス。橋頭ノ一亭田中良作ノ家ヲ借りテ離宴ヲ開ク。送ル者二十余名。婦女ハ酌ヲ差シ、相鯨飲ス。藤田進氏祝詞トシテ立テ一ノ戒言ヲ演セラレ、矢野真三郎氏モ亦立テ数言ヲ陳セラル。余ハ送諸君ニ数言ノ謝言ヲ述ヘ、宴半ニシテ出テ途ヘ就カントスレハ寒風益強ク、降雪面ヲ撲チ面ス可ラス。用意ノ人力車ヲ促ス。則チ諸氏ニ辞シ乗車別レテ出ツ。

〔在京国誌〕（資料番号2）

11_{チセン} × 20_{チセン} × 2_{チセン} × 1_{チセン} × 8_{チセン} 和綴

在京国誌

明治二十年一月一日着筆

因ニ記ス。明治十九年十二月十五日旧曆十一月廿日家郷發足小倉迄陸行、馬関ヨリ乗船大阪ヨリ京都ヲ經大津ヨリ東海道四日市迄陸行四日市ヨリ汽船ニテ横浜着。直ニ汽車ヲ飛シテ東京蛸殼町三丁目七番地草野義三郎宅ニ着セシハ同年廿五日午後七時ナリ。右途上国記ハ他ニ顛末ヲ悉シテ保存スルアリ。今茲ニ略ス。而シテ十二月廿五日即チ着日ヨリ同月廿一日迄ハ事十九年内ニアリ日僅カニ事記スヘキ少シ。故ニ茲ニ略シ二十年一月一日ヲ着筆トシ以下順日記スルモノナリト云爾。

一、本誌ハ在京中自身ニ関スル重要ノ事實ヲ概書シタルモノニテ其僅少事件或ハ常事ノ如キハ之ヲ書セス。而シテ事實自身ニ関セス、或ハ之ヲ見、之ヲ聞カサルト雖、府下ノ重事、或ハ国家ノ重件ニ関スルモノハ之ヲ誌ス。
 一、本誌ハ逐日ニ記スモノナリト雖、無事記載スヘキナキノ日ハ省テ載セス。且記事ハ簡略ニテ只大体ヲ挙タルヲ以テ主トス、是レ日々ノ細事ヲ記スルノ暇ナケレハナリ。

明治二十年一月

明治二十丁亥年

一月一日 晴

府下勅奏任官參賀アリ。此時蛸殼町草野氏ニ止宿シ、例ニヨリ年甫ノ祝食雜煮ノ饗ヲ受ク。

二日 晴

異事ナシ。蛸殼町水天宮昨日ヨリノ祭日ニテ賽者雜鬧、人形町ニ充ツ。

三日 晴

異事ナシ。水天宮祭本日ニテ止ム。賽者益多シ。北山豊五郎ヲ神田猿樂町二丁目一番地富士見屋ニ訪フ。北山氏ハ福

岡師範校ノ旧友ナリ。駒場農林学校ニ勉強ス。

四日 晴

火消組ノ出初式アリ。麴町区警視庁ノ練兵馬ニテ演習ス。見物人、山ヲ築ク。余ハ傍觀セリ。

五日 晴

蛸殻町水天宮祭アリ。

六日 晴

三原保太郎ヲ芝区新桜田町十九番地石井忠七方ニ訪フ。三原氏ハ甘木二日町ナリ。方今商業学校予備校ニ入レリ。

七日

山田新一郎氏ヲ小石川久堅町廿一番地杉浦重剛氏ニ訪フ。山田氏ハ高等中学校ニ通学セリ。

八日 晴

觀兵式アリ。日比谷練兵場ニ參觀ス。蓋シ前夜ハ芝区新桜田町三原氏ノ処ニ泊ス。午前九時三十分、聖上御臨場、十時三十分終レリ。頗ル快觀ナリ。

十日

再ヒ山田氏ヲ小石川ニ訪フ。専門学校入学ヲ決ス。

十一日

戸川槿次郎氏ヲ牛込町喜久井長沼方ニ訪フ。戸川氏ハ福岡人、正木塾ニテ友人ナリ。専門学校ニ通学ス。故ニ校ノ都合ヲ問合セナリ。

十二日

蛎殻町草野氏ヲ辞シテ、東京牛込早稲田東京専門学校ニ入校ス。法学部ニ入り英学ヲ兼修ス。臨時入学ニテ試験ヲ要セサルカ為ニ傍聴生ノ資格ナリ。寄宿舎第廿五号ニ入舎ス。

甘木実家、加藤、渡邊、岡部ニ出状シテ入校ヲ報セリ。一月以来書ヲ家郷ニ発スルコト、一日年始状、九日及本日ノ三度ナリ。

一三日

皇太后京都御幸啓御発車アリ。拝觀セス。此日家郷ヨリ着状ス。即日返書ヲ送ル。

一六日 晴

日曜ナリ。山田氏ヲ小石川ニ訪フ。入学ヲ報スルナリ。蛎殻町草野ヲ訪フ。同家ニ大和義雄、熊手嘉久平、渡辺作八郎ヨリ年始状来レリ。午后六時退宿。本郷元町二丁目東洋須知学校寄宿舎讚井可太氏ヲ訪、福岡鳥飼ノ知己ナリ。同所ニ泊ス。翌朝大学医科へ行ント欲シテナリ。

十七日

大学医学部眼科部ニテ目ノ診察ヲ乞ヘリ。医目質通常、大患ナキヲ悦ケリ。薬ヲ得テ帰舎ス。平井政吉及家郷ヨリ書状着ス。

十八日 降雪

八寸乃至一尺二至ル。

十九日

福岡西町有田延ヨリ着状。

廿日 雨

日曜ナリ。大西孚ヲ士官学校ニ訪フ。大西氏ハ福岡人ニシテ長崎外国語学校ノ知己ナリ。午后六時三原氏ヲ新桜田町ノ止宿ニ訪フ。同家ニ泊ス。蓋シ廿四日ハ聖上京都御行幸御発輦ノ日ナレハ奉送セント欲シテナリ。

廿四日 曇

三原氏ヲ早朝ニ辞シ東京府庁前ニテ奉送セントス。至レハ則チ聞ク、行幸御延引仰出サレタリト、未タ其所以ヲ知ラス。

廿五日 雨

五号ノ郵便郷里ニ発ス。印判入。本日聖上行幸アリシ。昨日ノ御延引ハ風雨ノ為ナリ。

廿七日

郷里ヨリ着郵。即日六号ノ返書ヲ送ル。本日ヨリ朝日新聞ヲ講読ス。

三十日

本日日曜ナリ。終日雨フル故ニ外出セス。

明治二十年二月

二月一日 曇

振気会（割注…校中ノ撃剣会）ニ加入ス。

二日

家郷ヨリ着郵。二月分ノ送金券入。

三日

郵便局ニテ為替受取、二月分謝納。高橋太郎へ火災見廻ノ葉画(ママ)ヲ送ス。

四日

銀座二見舗ニテ写真ヲ取ル。

六日 日曜晴

撃劍振気会開会アリ。

七日

九段招魂社内ニチャリネ曲馬ヲ見ル。同行者同学生宮崎八百吉ナリ。チャリネハ伊太利人ニシテ巧芸驚クニ堪ヘタリ。

八日

第七号郵書ヲ家郷ニ送ス。並ニ朝日新聞三葉ヲ送ル。

九日

家郷ヨリ書留郵便着、為替券ニ葉入、葉画ニテ受領証ヲ返画トシテ送ル。八号新聞三葉送付ス。

十一日 晴

紀元節ナリ。専門学校生徒九州出生人九州大親睦会ノ名ヲ以テ築地風松亭ニ会合ス。午后一時ヨリ全三時ニ終ル。四日、銀座二見朝隈ニテ写リタル写真、本日出来ス。

十二日

朝新聞代二月分(割注…一月廿五日ヨリ二月廿五日)二十五円ヲ払渡、家郷ニ写真ヲ送ル。及新聞三葉ヲ送ル。

十三日 晴

日曜ナリ。振気会開会。

十六日 晴

羅馬字会ニ転居ヲ通知ス。新聞三葉ヲ送ル。

十七日 晴

二月分月俸並舎費納。

十八日 晴

家郷ヨリ葉書着。(割注…新聞ノ送付止)

廿日 晴

日曜ナリ。振気会開会。朝日新聞配達停止ノ葉書ヲ發ス。

廿四日 晴

主上皇后宮京都ヨリ御還幸アリ。

廿五日 晴

一年後期入校試験^{ママ}アリ。受験ス。因ニ日ク初メ専門学校入學スルヤ中途ニテ試験ヲ受クルヲ得ス。仮リニ傍聽生トシテ入學セリ。今、後期生ノ募集アルヲ幸ヒ、受験入學セシナリ。

廿六日 晴

本日尚、入學試験アリ。受験ハ蓋シ本日ニテ終ル。及第シタリ。

廿七日 曇

日曜ナリ。蛸殼町草野氏ヲ訪フ。郷里ヨリ草野宅迄一便到着セシアリ。

明治二十年三月

三月一日 晴

家郷並加藤謙治ニ出郵ス。蓋シ試験及第ノ報知及訪問ヲ兼ネテナリ。家郷ヘノ分ハ中ニ七通入り、第九号ノ郵書ナリ。本日ヨリ学校定期試験後ニ付、十日間休業。

二日 晴

牛込若宮町ニ平岡茂氏ヲ問フ。氏ハ下座郡城村ノ人、陸軍少尉トナリテ広島鎮台ニアリ。台中選抜セラレテ陸軍戸山学校ニ入学シ該町ニ下宿ス。

三日 晴

讚井可太氏ト始メテ辰ノ口勸工場ヲ巡覽ス。

五日 晴

國民之友一冊赤坂須坂町民友社ヨリ到着。讚井可太、当舎ヲ訪フ。

六日 日曜、小曇

上野公園ニ遊フ。始メテ動物園博物館及教育博物館ヲ遊覽ス。午前八時ヨリ出テ午后七時帰舎ス。

七日 小曇

宮崎八百吉同行、午前九時ヨリ観梅ス。向島梅屋敷、亀井戸臥龍梅各半開ナリ。香氣芬々、心爽快ヲ覺ユ。而テ亀井戸殊ニ愉快ヲ覺ユ。

九日 大風雨終日

十日 晴

三月分月謝納ム。午后ヨリ赤坂仮皇居青山御所ヲ拝觀シ、巡リテ青山墓地ヲ見ル会ニ耶蘇葬式アリ。稍奇異ヲ覺ユ。
十一日 晴

授業用書籍モ一リ地理書、英文指針、ナシヨナル三ノ卷以上三冊購求。午后六時ヨリ寄席行。

十二日 曇

本日ヨリ授業始。今夜大風甚シ。本日専門学校へ寄留届ヲ出ス。日本橋区役所へ寄留換届ヲ送ル。

十三日 晴

第十号郵便ヲ發ス。並東京地函ヲ送ル。山梨県三城収治ニ郵送ス。

十六日 晴

福岡藩旧藩主老公黒田長溥侯葬式アリ。青山墓地ニ葬ル。蓋シ侯ハ本月七日、病ヲ以テ薨セラレタリ。

十七日 曇

加藤榜園氏ヨリ来郵。本日月俸及舎費三月分ヲ校納ス。

十八日 晴

羅馬字雜誌第廿七号着。

十九日 晴

羅馬字會員総集会午后一時ヨリ工部大学ニ開会、臨席ス。矢田部良吉氏ノ報告及高松豊吉氏ノ會計報告終テ、演説者
亞米利加公使ハッパード氏、大学教師英人シヤンプレン氏、通信大臣榎本武揚君、大学総長渡辺洪基君ノ四氏ノ演説
アリ。且鳩山和夫氏ノ議長ニテ二三ノ議事アリ。午后四時閉会ス。帰路蛸殻町草野ヲ訪、夜ニ入り帰舎。本日山梨県
甲州三城収治氏ヨリ着郵。

廿日 晴 無風

三月分振気会費ヲ出ス。明廿一日尚剛館祝宴アリ。宴費出ス。午后ヨリ浅草生麦楼ニ法律經濟演説討論会アリ。参聴ス。専門学校講師文学士高田早苗氏演説アリ。弁爽ニ説確実頗ル喝采ヲ得タリ。其他諸氏皆雄弁、甚盛会ナリ。

廿一日 晴

春期皇靈祭ナリ。午后ヨリ尚剛館樋口先生ノ宅ニ尚剛館一周年祝アリ。臨席ス。組割十数ノ試合アリ。終テ開宴ス。本日午込警察署ヨリ巡査三四十名会場シ、其他諸先生相集ル。宴中祝詞並演説アリ。午后六時退散、頗盛会ナリ。

廿三日

雪ハ蓋シ昨日午后ヨリ寒氣俄ニ増シ降雨セシカ今朝ヨリ変シテ雪トナリ。午后ニ至リテ晴ル。積雪ニ至ラサルナリ。

書留郵便（割注ニ四月ノ分入）着ス。

廿四日 晴

第十一号郵書ヲ送ル。

廿五日 晴

独乙皇族レオポルド親王来朝ニ付、臨時觀兵式アリ。參觀ス。午后ヨリ上野ニテ友人ト写真ス。帰路本郷春木町ニテ皇后宮ヲ拝ス。但向ケ岡御行啓御帰路ナリ。

廿六日

一ツ橋外高等中学校ニテ講談会アリ。演説者穂積陳重及小金井良精ノ両氏。午后七時ヨリ午后十時ニ至ル。聴衆甚盛ナリ。

廿七日 晴

日曜ナリ。

廿八日 晴

四月分学資ヲ郵便局ニテ請取。

卅一日 晴

神田区小川町勸工場ニ於テ靴一個ヲ購フ。今夜芝区芝井町ノ湯屋ヨリ出火シ、午后八時ヨリ午後十一時ニ至ル。家数凡五百戸類焼ス。近来ノ大火ナリ。

明治二十年四月

四月一日 晴

殊ニ暖ナリ。四月分月謝月俸並舎費ヲ校納ス。午后ヨリ筑前寄宿舎生七八名ト麴町区平川町平川天神社内ニ相撲ヲ見物ス。剣山、西ノ海両関総テ二人掛リ、各力士勇ヲ奮テ甚歡ナリ。

二日 雨

朝来寒氣ナリ。

三日 小雨午后ヨリ晴

日曜並神武天皇祭ナリ。午前八時ヨリ振氣会ノ開会。十二時ニ終ル。蓋シ道場不完全ニ付、本月上旬ヨリ修繕ニ就事セシカ落成ヲ告ケシタル以テ本日開場ノ趣意ニテ良日トシ此拳ヲナセリ。出席会員モ殊ニ多ク盛会ナリ。午后ヨリ上野ニ遊フ。桜花爛漫已ニ半開ヲ告ケ殊ニ客月廿五日以来工芸博物共進会開会中ニ付、紳士貴人縦横旁午織ルカ如ク甚盛。独り憾ムラクハ天氣晴ナラス、寒風砂ヲ卷クモ不忍弁天祭ハ是モ昨日以来祭典アリ。賽者雜鬧。池中ニ二尾ノ鯉

魚（割注…ブリツキ製）ヲ浮フ。波ニ随テ縦横動揺恰モ游泳スルカ如シ。且ニ隻渡舟ヲ浮ヘテ遊客ノ渡池ヲ便ニス。桜樹ノ好氣ト云ヒ、弁天盛祭ト云ヒ、遊客夥多ナル。日驚スニ足レリ。薄暮ヨリ榎町ニ教育幻灯会ニ望ム。

四日 曇

春期大運動会、会費ヲ支出ス。

五日 晴

明六日当校春期大運動会、下総小金カ原ニ催ス筈ニテ友人六名ト本日午后ヨリ出發ス。小金原ハ当校ヨリ七里余、広漠ノ原野ニテ大隈氏別宅アリ。午后一時發足。上野ヲ經テ千住ニ出テ、是ヨリ以北ハ道路狹隘、榎戸、戸ヶ崎ヲ經テ午后七時流山村ニ達シ、加納屋ニ泊ス。流山ハ隅田川ノ上流即小利根ノ兩岸ニテ河蒸氣常ニ往來ス。今夜十二時本校生徒六七名概宿ニ泊ス。

六日 晴

本日運動会日ナリ。当校ヨリ出生百余名午前三時發足、三々五々陸續トシテ來集スルモノ十時ヨリ十一時頃ニ及フ。余ハ各友ト流山駅ヲ發シテ小金原ニ第一着ス。総員凡百三十名計、大隈氏別邸内ニ集ル。邸ハ原中ニ入りテヨリ半里程ノ処ニアリ。数棟ノ小屋左右ニ散在シテ恰モ田舎ノ一小部落ヲ成セリ。邸中ハ庭内ニ生徒ノ休息所ヲ設ケ委員ハ前日ヨリ來テ種々周旋ノ勞ヲ當リ邸内小高キ処ニ大旗數本ヲ翻ス。以テ勢声ヲ裝フ。幹事田原栄氏、舎長植崎俊夫氏及本校委員前島密氏臨会アリ。午前十一時一同昼飯、夫レヨリ邸ヲ距ルコト十町程ノ草野ニ出テ種々ノ遊戲運動ヲ催ス。終テ午后三時一同酒宴ヲ開ク。宴中詩歌囂々快声天地ヲ震ス。於是一同飯ヲ喫シ陸續退会、又流山ニ集ル。一隻ヲ雇ヒ総員舟遊帰途ス。頃夕日没ス。舟中樽ヲ傾ケ飯ヲ喫ス。紅顏月ヲ傾ケ快愉極リナシ。午前二時舟、日本橋区蛸殼町ニ達ス。則チ上陸、校ニ着セシハ殆ント四時ニ垂^(マ)ントス。

七日 晴

十二号郵書並岡部千俣、加藤謙治ニ出郵ス。

八日 雨

運動会ニ付、六日ヨリ本日迄三日間休暇。本日雨天ニ付外出ヲ得ス。

九日 晴

向島ニ遊フ。此時桜花爛漫、已ニ九分ノ満開ナリ。帰路吉原ノ夜桜ヲ見ル。

十日 晴

日曜ナリ。午后ヨリ上野ニ遊フ。桜花過半、落散スレドモ十分ノ觀アリ。

十一日 晴

神田ニテ髮摘。

十三日 晴

下総習志野原出張先ヨリ大西孚ヨリ着郵。即日返書ヲ送ル。

十六日 晴

向島へ午后ヨリ遊フ。大学校生徒ノ漕艇会アリ。遊覽人甚多雜鬧甚シ。

十七日 晴

日曜ナリ。蛸殻町草野ヲ問フ。草野氏ハ客月下旬ヨリ一町内商店へ移居セリ。

十八日 晴

十三号郵書ヲ送ル。(割注…草野ヨリ渡辺へ送金ノ件)

廿四日 晴

日曜ナリ、昨日ヨリ風邪ニテ伏床。本日ハ終日天ヲ拝セス。

廿九日 晴

上野ニ工芸共進会ヲ巡覽ス。本会ハ府下各工芸奨励ノ意ヨリ起ル。四月一日ヨリ初メ五月廿五日ニ終ル。会場ニ棟ニ別レ列品甚盛ナリ。本日家郷ニ第十四号郵便書葉書送ル。

三十日 雨

振気会四月分費ヲ支出。

明治二十年五月

五月一日 晴

日曜ナリ。午前振気会開会。午后ヨリ大久保村へ躑躅見物ニ運歩ス。

二日 曇

五月謝校納、十五号郵便書ヲ發送ス。本日ヨリ友人五名ト報知新聞ヲ取ル。

四日 晴

書留郵便書着。五月分学資入。

五日 曇

十六号郵便書トシテ葉画ヲ發ス。書留郵便書ノ受取ナリ。本日五日節句ニテ平日ヨリモ殷賑ナリ。

六日 曇

本日ヨリ三日間九段靖国神社祭。本日、午前礼拝式アリ。午后競馬アリ。午后一時ヨリ參賽ス。

七日 雨

本日ハ雨ノ為メ靖国神社ノ祭角力日延ス。

八日 晴

日曜ナリ。靖国神社祭ニ付、大角力アリ。劍山、大連ノ両関、見客非常ニ多シ。殆ント万ヲ以テ数フルニ至ル。氷店甚多シ。

九日 晴

郵便局ニ於テ為替ヲ受取ル。本日ハ靖国神社ニテ花火打揚ノ催シアリ。午后三時頃ヨリ夜間十時頃終ル。仕掛花火七個アリ。旭日旗、藤花、西洋人等ハ殊ニ愉快ヲ覚ヘタリ。其他画花火夜火等能出来タリ。観客甚多ク日没以後ハ競馬場内溢レテ動ク能ハス。

十一日 曇

兼テ当校各生申合セ一同注文夏帽子出来セリ。一個ヲ購フ。

十五日 晴

日曜ナリ。昨日ハ早朝ヨリ大雨、盆ヲ覆スカ如クナリシカ、本日ハ早朝ヨリ晴和ナリ。穴八幡祭ニテ神楽アリ。一昨十三日渡辺作八郎氏ヨリ葉書到着セリ。該日此ヲ書セサリニテ茲ニ之ヲ補ス。

十七日 曇

地理書平生試験アリ。大西孚ニ土官学校へ葉画ヲ送ル。昨十六日ヨリ脚氣予防ノ為牛乳ヲ服ス。

十八日 晴

五月分俸舎費ヲ校納ス。神田西小川町羅馬字会二十年分会費ヲ納ム。

十九日 晴

十七号郵書並種物ヲ送ル。

廿日 雨

北山豊五郎ヨリ葉画着ス。返書ヲ送ル。本日運送会社ニ託シ、種物一包ヲ送ル。並ニ其通知トシテ葉書ヲ發ス。

廿一日 晴

(割注：十六日ヨリ三十一日迄) 牛乳代ヲ払フ。

廿二日 晴

日曜ナリ。北山豊五郎卜筑前寄宿舎ニ会合ス。前約アレハナリ。午后ヨリ三郡在京生徒旧交会ニ出席ス。右旧校会トハ先年来甘木中学校ニ同窓ノ者、苦ヲ嘗テ當時在校ノ旧交ヲ温ムルノ会ナリ。追々区域ヲ広メ今ニテハ甘木在學生ニ限ラス三郡ニ因シアルモノ皆集テ旧交ヲ和スルノ会ニ変シタルモノナリ。余ハ本月初メテ入会ス。出席者ノ重ナルモノモ高等中学生山田新一郎、香月春藏、高等師範校ヨリ里村勝次郎、山田琢磨、士官学校ヨリ尾野実信、赤松邦太郎外二人総員廿名計リ。午后二時ヨリ五時ニ終ル。本日家郷ヨリ書留着ス。六月ノ学資入りナリ。

廿三日 午前八晴天ナリ。午后二時頃ヨリ大雨

雷雨甚シク、芝区ニ落電セリ。当夏初雷ナリ。四時ヨリ俄ニ変シテ大雨降電セリ。殆ント十分間計リ、大サ豆ノ如シ、奇ト云フヘシ。

廿五日 曇

大西孚及家郷ニ葉ヲ發ス。但廿二日到着書留ノ受取書ニテ十八号ナリ。

廿七日 晴

六月分学資金ヲ郵便局ニテ受取ル。大西孚ヨリ書状来ル。

廿九日 雨

日曜ナリ。木挽町厚生館ニ政学講義会ノ演説ヲ聞ク。演説者ハ当専門学校講師天野為之、高田早苗、片山清太郎三学士ナリ。政学講義会ハ近頃ノ發起会ニテ其演説会ヲ開クハ本日ヲ以初メトス。聴衆満館ニテ充チ甚盛会ナリ。昨廿八日及本日ノ両日ハ不忍畔ニテ競馬ノ催アル筈ナリシカ両日共雨天ニテ日延ス。

卅日 晴

五日振気会費ヲ出ス。

明治二十年六月

六月一日 雨

客月廿八日以来天気晴曇極リナク一日晴ルレハ一日雨、随テ寒暖常ナラス。其暑キトキハ単衣ニテ尚且其暖ヲ覚ユルモ、寒キトキハ裕衣ニ尚裕羽織ヲ要ス、時氣殆モ入梅中ノ如キ至ル処トシテ、人其不定候ヲ嘆カサルモノハナシ。麦穂已ニ半熟シテ稲苗已ニ寸余ニ及ヘリ。早稲田ノ各田皆水満チテ蛙声嘩ナリ。本日経済原論ノ定期試験アリ。

六月一日 晴

六月分月謝ヲ校納ス。

三日 晴

六月一日ヨリ本日迄大蔵省内ニテ不換紙幣ノ焼失アリ。本日午后ヨリ參觀ス。本日ノ焼失高七十四万円余ナリ。観終

テ芝増上寺辺ヲ漫遊ス。本日初テ軍衣ヲ着ス。

四日 晴

六月分牛乳ノ代貨ヲ払フ。午后ヨリ本校第一第二教場ニ於テ同攻会ノ演説アリ。弁者高田早苗、宇川盛三郎、末松謙澄ノ三氏。聴衆ハ本校ハ勿論、外来生モ数多有之、前島密君モ聴衆中ノ別席ニアリテ頗盛會ナリ。聴衆者ハ凡五百名内外ナリシ。

五日 雨

日曜ナリ。昨日及本日ノ兩日不忍池畔ニテ競馬アル筈ナリシカ本日ハ雨天ニテ其儀ナク最モ昨日ハ之レアリタリ。

六日 晴

本日不忍ノ競馬アリタリ。本日十九号郵便書並加藤渡辺両氏へ發郵ス。大阪ニ於テ国事犯ノ公判ヲ開キタルノ報ヲ初メテ報知新聞ヲ■該国事犯ハ大井憲太郎、小林樟雄、磯山清兵衛ニ係ル朝鮮事件ナリ。

十日 曇

金子光次郎ニ吊詞葉書ヲ送ル。右ハ客月中旬、実兄ノ死ニ遭ヘリ。

六月十一日 晴

日曜ナリ。堀切村ノ菖蒲半開ノ報ヲ新聞ニ見ル。

十三日 晴

早稲田初メテ田ヲ植ル、麦刈入ヲ所々ニ見ル。螢火江戸川ニ点点タリ。

十四日 曇

本日ヨリ二日間、麴町区日枝神社ノ大祭アリ。午后五時ヨリ參賽ス。麴町ハ勿論、四ツ谷寺各町屋台ヲ引廻シ礼物ヲ

飾り、町人ハ各自紛異様ニ出立テ、町内至ル処迄雜鬧甚シ。

十五日 雨

本日ハ日枝神社ノ祭日ナリ。午前ハ曇天ニテ細雨時々降り居シカ、午后ヨリ大雨入梅ノ本体ヲ顕ハセテ（入梅ハ本月十一日ニ入ル）各町ノ落胆思フテ堪ユヘキナリ。家郷ヨリ書留着ス。七月分ノ為替入リナリ。即日葉書ヲ以テ受領ヲ報ス。本日ハ午前丈ケ日枝神社祭礼アリ。

十六日 晴

本日日枝神社ノ余祭ニテ日本橋京橋麴町等甚賑ヘリ。殊ニ昨日雨ノ為メ各町人充分ノ愉快ヲ得サルカ故ニ本日ハ所々ニテ躍リ、或ハ異様ニ扮装シテ大ニ祭典ノ勢援ヲ為ス。

午后ヨリ麴町ニ往テ京橋辺迄遊フ。本郷区弓町二丁目廿四番地博聞社へ葉画ヲ發ス。日本大家論集購求ノ為メナリ。

十七日 雨

六月分月俸及舍費ヲ校納ス。

十九日 晴

日曜ナリ。振氣会開會。本月振氣会委員ニ順■ス。午后ヨリ築地南小田原町四丁目ニ西洋日本合併相撲ヲ見ル。日本力士ノ重ナルモノ劍山、一ノ矢、西海、大鳴門、西洋力士ニハウエヴスタートテ肥大ノ力士（割注…体重ハ劍山ヨリモ十貫内ノ重サアリト云）アリ。頗ル愉快ヲ覺ヘタリ。

六月廿三日 雨

七月分月謝ヲ校納ス。報知新聞代ニケ月分ヲ払フ。

廿五日 曇

六月分振気会費ヲ払フ。農林学校北山豊五郎ニ葉画ヲ送ル。本日ナシヨナルハ訳読ノ試験アリ。

廿六日 晴

日曜ナリ。農林学校北山豊五郎ニ出状ス。

廿七日 晴

赤十字病院ニ診察ヲ乞フ。午込郵便局ニ於テ七月分ノ為替ヲ取ル。且金参円ノ貯金ヲ預ク。

廿八日 晴

市ヶ谷八幡ノ祭典アリ。大西孚ニ出状ス。

廿九日 晴

英学地理書ノ定期試験執行アリ。昨夜土方保次郎死ス。同氏ハ筑前寄宿舍入舎中脚気症ニ罹リ、二日間計リ臥辱ノ上、病勢激烈ヲ極メタレハ舎生ノ尽力ニテ本郷西片町十番地土方勝一方ニ送リタルニ病勢愈強勢ヲ極メ大学ノ医師モ匙ヲ投シ、昨夜午后九時頃死セリ。本日筑前寄宿舍ヨリ幸野慶次郎通知ニ来ル。午后ヨリ土方勝一宅ニ吊詞ス。専門学校人名簿出来ス。

廿四日 晴

リーダー (reading) ノ試験アリ。午后ヨリ土方保次郎葬式ニ会葬ス。午后三時出棺本郷区蓬来町八番地浄心寺ニ葬ル。会葬者筑前寄宿舍諸氏其他知己ノ書生凡五十人計リナリ。本日定期試験ノ掲示アリ。時間割定ル。

明治二十年七月

七月一日晴、

本校入学試験執行アリ。

三日 晴

日曜日。

五日 晴

契約法試験執行。

七日 曇

法学通論試験執行。昨日幸野慶次郎、南多摩郡上長房村へ避暑ノ報ヲ得タリ。

九日 晴

英文指針試験執行。大西孚ヨリ書状来ル。

十一日 晴

英国刑法試験執行。昨十日八月分学資入書留着ス。葉書ヲ以テ受領ノ報ヲ發ス。

十三日 雨

日本刑法試験執行。本日限りニテ大試験執行済（割注…全校各試験ハ来ル十五日迄）ニテ、夜雨ヲ犯シテ神楽坂都楼ニ一杯ヲ傾ク。蓋シ同舎生三城取治婦省（割注…暑氣婦省）ニ付離杯並試験済祝ヲ兼ネテナリ。本日七月分月俸並舎費ヲ校納ス。

十三日 曇

筑前寄宿舎ヲ訪フ。本日ヨリ試験済後ノ休暇トナル。

十四日 雨

式拾号ノ郵書ヲ發シ、併ニ加藤謙治ニ發郵ス。試檢終リヲ通知スルナリ。

十五日 晴

校友庄司永成氏ト横浜ニ遊フ。蓋シ同舎生余語勝忠氏ハ該地桜木町ニ親戚アリ。兩三日以前ヨリ同所ニ滞在スルヲ以テ、同氏ヲ訪ヒ、該地見物ノ案内者ニ充テケリ。横浜ハ五港ノ一ニテ全国屈指ノ良港ナリ。甚境域広闊ナルニアラサルモ人家周密外國人ノ居留地ハ西南丘稜ニ位置ヲ占メ、高閣大厦一見外國館ノ堂々タルトヲ見ル。港内ハ軍艦商船其他大小ノ船舶林立簇集シテ恰モ良港ノ体ヲ為セリ。港中ノ高厦ハ税関其首ヲ占メ、県庁町会所尤見ルニ堪ヘタリ。野毛山高丘ニテ伊勢大神宮ヲ祭ル。位置高噪ニテ全港ヲ一眺中ニ集メ、景色頗佳ナリ。成田ノ不動病院等連ナリテ各好位置ヲ占ム。港中市街ノ尤モ大ナルハ本町通トス。白壁高厦相連リ洋館軒ヲ連ス。之ニ次クヲ伊勢佐木町、吉田町等トス。家屋高麗ニアラサルモ町内頗ル觀工場、寄席、見世物等相連リ芸人ノ唱声、觀客ノ歡声、画夜相和シテ其殷賑港中第一トノ地トス。本日幸ヒ盆ノ十五日ニ当ルヲ以テ殊ニ盛況ヲ増シタルヲ覺ヘタリ。今朝九時十五分、汽車ヲ以テ新橋ヲ發シ横浜六時發ノ汽笛ト共ニ帰郷ス。学校ニ着セシハ午后九時ニアリタリキ。

十六日晴、試檢終結並卒業生ノ離杯ヲ兼ネテ江東中村樓ニ親睦会ヲ催ス。來会者百十数名、客員ノ重ナルモノハ前島密、俣野時中、岡山謙吉、講師ニハ磯部四郎、高田早苗、天野為之、中橋徳五郎、片山清太郎、今井鉄太郎ノ諸氏及校長大隈秀麿君アリ。午后五時閉会ス。客員岡山、講師磯部、天野演說アリ、生徒中ヨリ兩三名ノ答辭アリ。午后九時退散ス。盛会ナリト云フヘシ。本日ハ八月分ノ学資ヲ替金ヲ受取ル。

十七日 晴

日曜ナリ。

十九日 晴

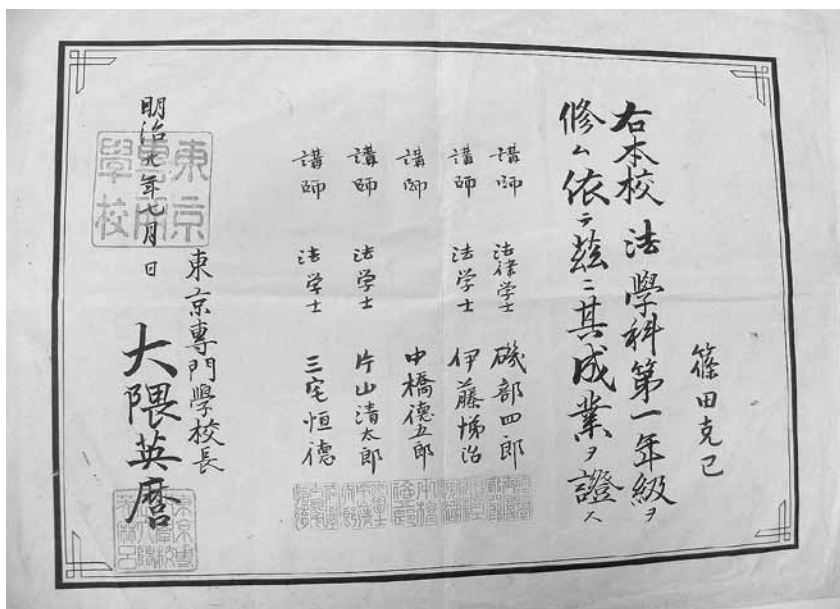


写真1 「[法学科第一年級修了証書]」(篠田ソノ子氏寄贈篠田克己旧蔵資料3)

試験点数数揭示アリ。法律部三十四名中ノ内七番二位ス。

本日蛸殻町草野氏ヲ訪フ。

廿日 晴

本日卒業証書授与式ヲ執行ス。本日学校ノ装置ヲ略言スレハ、門前ニ大ナル緑門ヲ建テ歓迎ノ二大字ノ額ヲ掛ケ、校ノ入口ニハ日章ヲ交叉シ構内ハ第一第二ノ両教場ヲ以テ式場ニ充テ第四第五教場ヲ以テ生徒ノ宴会席ト定メ、第六教場ヲ卒業生ノ知己保証人ノ休憩場、第七第八ヲ以来賓ノ休憩場ト定メ書籍室ヲ以テ保証人ノ宴会席ト定メタリ。来賓ノ重ナル人ハ大隈重信、福澤諭吉、渡辺洪基、辻新次、箕作麟祥、富井成章、外山正二、鳩山和夫、大谷木備一郎、島地黙雷、徳富猪一郎、中井篤介、鍋島直彬、穂積陳重等凡五十余名、議員ニハ前島密、島田三良、矢野文雄等凡ソ七八名アリ。其他得業生、新聞記者及西洋人三名等式場凡小半ヲ占メタリ。本日ノ会式順序ハ午后一時前ニ来賓生徒悉ク相送り、一時ノ時鐘



写真2 「東京専門学校第4回卒業式記念（在校生全員）」（明治20年7月）
（写真データベース id 2568、当センター所蔵）

ト同時ニ各人式場ニ相列シ三部学ノ及第生ノ証書並
優等生賞状ノ授与式アリ。午后二時ノ時鐘ヲ以テ校
前ニ写真ス。三時三十分ノ時鐘ヲ以テ卒業生ノ証書
授与式ヲ執行セリ。式場ノ中央ニハ大水塊数個ヲ積
テ涼氣ヲ引キ、来賓ハ左ニ、議員教員等ハ右ニ、而
テ生徒前面ニ相列シ校長大隈秀磨立テ証書授与式ヲ
行フ。証書渡シ終テ校長ノ祝詞、卒業生総代前川慎
造氏ノ答詞朗読アリ。来賓外山正一、渡辺洪基、議
員矢野文雄ノ演説及講師高田早苗氏ノ来賓ニ対シ卒
業生及学校ニ付テノ報告アリ。午后五時頃式全ク終
ル。夫ヨリ生徒ハ生徒ノ宴席ニ、保証人ハ保証人ノ
宴席ニ酒肴ヲ開ク。而テ卒業生六十名及講師来賓ハ
大隈邸ニ於テ西洋料理ノ饗応アリ。是レ本日順序ノ
大略ナリ。右ノ如ク証書授与式ノ全ク終リタレハ、
明廿一日ヨリ暑中休暇、来ル九月十日迄五十日間ト
ス。

廿一日 晴

本日ヨリ暑中休暇トス。昨日ノ勞レニテ学校甚静ナ

リ。本日ヨリ喜久井町平田四郎右衛門宅へ下宿ス。

廿二日 晴

炎威甚盛ナリ。第廿一号ノ郵書ヲ發ス。並山梨県三城収治、横浜余語勝忠、士官学校大西孚へ發郵ス。

廿三日 晴

水稻荷富士山祭り。但本日ヨリ四日間。

廿四日 晴

日曜ナリ。

廿七日 晴

正木昌陽ニ出状ス。

廿八日 晴

両国川開キアリ。午后五時ヨリ出浮。

廿九日 晴

専門学校授与式日ノ写真出来。

卅一日 晴

谷農商務大臣辭職、五六日前ニアリ。本日々曜ナリ。

明治二十年八月

八月一日

七月分牛乳並宿料ヲ払フ。

五日 雨

廿二号ノ郵書ヲ發ス。三城収治へ及第免状ヲ送付ス。本日山田琢磨氏婦郷ニテ再出京ニ付、家郷ヨリ依頼ノ書状ヲ受領ス。大西孚へ發郵。夜九時家郷ヨリ郵書々留着、九月分学資入、直ニ葉書ヲ以テ受領ヲ報ス。

六日 曇

午后ヨリ夕立アリ。同宿生余語勝忠、横浜へ帰ル。

七日 晴

是迄喜久井町平田へ下宿ノ処、都合ニヨリ本日午前十一時牛込早稲田南町二十三番地酒井忠義方へ移転ス。庄司、三城、今井へ葉書ヲ以テ通報ス、及余語へ横浜へ報ス。廿三号郵書ヲ發ス。移転ヲ報スルナリ。本日八日曜日。

八日 晴

余語ヨリ横浜ヨリ着状。

九日 晴

本日ヨリ神楽坂へ囲碁稽古ス。同意、戸川槌次郎ト兩人ナリ。

十日 晴

神田東雲堂ヨリ小説借入閲覧ス。軍衣一反購求ス。阿波縮ニテ価七十三錢。三城ヨリ着状ス。

十四日 晴

穴八幡並築土八幡今明両日祭礼アリ。本日日曜ナリ。

十六日 曇

午后三時夕立ニテ劇風強、而雷鳴甚シク落雷甚シク落雷、府下廿二ヶ所アリ。近年稀シキ劇雷ナリ。

十九日 半曇

横浜余語氏ヨリ着状。本日ハ兼テ朝野天文有志者待チニ待チタル三十年（割注…或ハ日百年）ニ一度ノ再ヒス可ラサル日蝕既皆日ナリ。蓋シ当日ノ日蝕タルヤ皆既ニテ稀有ノ現象ナレハ、左ナキタニ天文学ノ進歩アル今日ニ当リ殊更學問社会ノ大問題トナリ。曾テ大学ニ於テ寺尾氏ノ講談アリシ以来、府下ハ勿論天下ノ大問題トナリタレハ、至ル処車夫店婢ニ至ル迄、談日蝕ニ及ハサルナリ。而シテ其尤モ好觀ナレハ磐城岩代越後等ノ地ニシテ海外ニ於テモ実ニ學者間ノ大現象ト見認メタルニヤ、亜米利加ヨリ愈々學士一名、學生二名觀測ノ為メ我国ヘ渡來シタレハ幸ニ大学校ヨリモ寺尾教師ヲ始メ學生両三名觀測出立ノ計画アリシ際ナレハ、相率テ白河ニ出立セラレタリ。白河近傍ハ觀測最良ノ地ナルヲ以テ其大現象ヲ見ント欲シ書生、官吏、台兵其他写真師等、杖ヲ曳クモ陸統絶ヘス。上野發ニ奥羽ノ方ヘ汽車ハ觀者便利ノ為車賃ヲ減セル迄ニ及ヘリ。府庁ヨリハ当日ノ注意ヲ布告シテ点火ノ用意等ヲナサセシメ、工部省ヨリハ觀測者ノ心得ヲ告知スル等、実ニ天下ノ一大問題タリ。扱テ本日及ヒタレハ天氣如何アラント思ヒシニ、近日ノ晴ニモ似ス曇天ナレハ至ル処人々憂慮セサルハ勿リシニ、午后ヨリ幸ナル哉、雲雲漸々ニ四散シ蝕時ハ丁度晴レリ。午后二時三十分頃ヨリ蝕ケ初メ、三時頃ノ最蝕ニハ実ニ天地薄夜ノ如ク家内窓サキノ処ハ点火セラレハ見ル能ハサルニ至レリ。此間ハ僅カニ数分間ニテ其前後ハ恰モ月夜ノ如ク星爛々トシテ天ニ踰ルモノ三ツ。実ニ稀有ノ現象ナリ。最蝕ノ有様ハノ如シ。蓋シ聞ク。磐城岩代越後辺ハ皆歛ナルヘキモノナリト。然ルニ不幸ナル哉、該辺ハ丁度日蝕時ニ当タリテ曇雲四集、大雨雷鳴セリト、落胆実ニ思フルニ堪ユヘキナリ。

廿日 晴

廿四号ノ郵書並加藤謙治ヘ葉書、余語ヘ書状ヲ發ス。

廿一日 晴

日曜ナリ。

廿八日 晴

日曜ナリ。蛸殻町草野氏ヲ問フ。桑野同行ナリ。今夜大雨、雷鳴ス。十六カ所本郷、谷中ニ雷火アリ。十一戸焼失。

卅日 晴

三城収治ヨリ着状（割注…専門学校々々長更迭、大隈ノ後任前島密氏）。

卅一日 晴

八月分宿料ヲ払フ、本日冷氣甚シク殆ト秋日ノ如シ。尤モ天少シク曇レリ。

明治二十年九月

九月一日 晴

第廿五号葉書並三城収治へ発郵ス。本日十月分学資入書留着ス。第廿五号ノ葉書ハ之レカ領収書ナリ。

二日 晴

庄司、永成ヨリ着状。直ニ返書ヲ送ル。

四日 雨

日曜ナリ。

五日 晴

昨日ノ雨ニテ冷氣大ニ増シ、今朝軍衣肌着ニテ尚寒ヲ覚ユ。本日地震ス。

六日 晴

第廿六号郵書ヲ發ス。

八日 晴

同宿生鶴田勇次郎千葉県千葉学校へ聘セラレ本日出立ス。午后二庄司、永成来ル。

十一日 晴

本日々曜ナリ。学校開校ノ筈ナリシモ休日ノ為メ、明十二日二日延ヘアリ。本日早稲田南町酒井忠義方ヲ出テ学校寄宿舎甲第廿五室ニ入舎ス。同舎生余語、庄司、三城ト四名ナリ。午后六時ヨリ神田ニ出テ教科用洋書ヲ購ヒ、帰路神楽坂ニテ摘髮ス。昨日香月春蔵ヨリ帰京ノ報知着ス。

十一日 曇

本日ヨリ開校。本学期ヨリ江木衷、奥田儀人、中村忠雄ノ三氏及西洋人二名講師ニ増聘セリ。皆本日ヨリ出校ス。浜井可太農林学校入舎ノ報ヲ得タリ。

十三日 雨

廿七号葉書ヲ發ス、加藤謙治、浜井可太二名葉書ヲ發ス。入舎報知ナリ。

十四日晴（割注…但午前八雨）、今明両日ハ神田祭ニテ大賑ヒ。殊ニ明日ハ引物練廻ニテ一層ノ賑ナルヘシ。本日午后ヨリ參詣ス。賽者山ヲ為シテ神門へ入ル可ラス。

十七日 晴

本日ヨリ舎中申合セ毎日新聞ヲ取ル。午后ニ筑前寄宿舎ヲ問フ。始メテ神吉定安、山田邦亥氏ニ面ス。

十八日 日曜ニシテ曇

午后ヨリ降雨。昨日内閣更迭アリ。伊藤総理大臣宮内大臣ノ兼任ヲ解テ臨時外務大臣ヲ兼ヌ。井上外務大臣、宮中顧問官ニ転シ、土方農商務大臣、宮内大臣ヘ転シ、農商務大臣ノ後任ハ黒田顧問官ナル。本月初メテ振気会ヲ開ク。

廿三日 晴

秋期皇靈祭ナリ。麴町区飯田町四丁目仁泉亭ニ於テ旧友会ヲ会スルモノ二十余人、土方保次郎、金子光次郎慰仏事件ヲ談ス。又会員井ノ口吉五郎ノ發議ニテ、夜須郡青年会ト旧友会ト連絡ヲ決ス。

廿五日 晴

日曜ナリ。大阪国事犯ノ判決初メテ新聞ノ報告ヲ得タリ。

廿六日 曇

讚井可太ニ發状ス。農林学校ニ入舎シテ、南豊島郡中渋谷村二百七十一番地村上啓二郎方ヘ下宿ス。午后加藤謙治ヨリ着状ス。

廿七日 晴

廿八号、廿九号郵書ヲ發ス。廿九号専門学校改正規則書ナリ。

廿九日 晴

牛乳代ヲ払フ。

明治二十年十月

十月一日雨

二日 雨

日曜ナリ。我輩ノ講読スル毎日新聞発行停止セラル。

三日 雨

月俸及舎費十月分ヲ校納ス。

四日 雨

讚井可太ヨリ金子入書状着。

七日 午前晴午后三時頃ヨリ大雨、盆ヲ覆カ。

頃日雨天相続キ昨夜ヨリ晴レテ今朝晴トナリシカ又午后ヨリ雨天ニ復セリ。

八日 午前雨午后晴

十一月分学資入書留着、受領報知トシテ葉書ヲ發ス。

九日 晴

日曜ナリ。池ノ端茅町ニ山田健之助先生ヲ訪フ。英学教授ヲ依頼セリ。

十日 晴

十一月分学資ヲ郵便局ニ受取、午后ヨリ井生村楼へ政談演説会ニ趣キタルモ満員ニテ果サス。

十一日 晴

讚井可太氏ニ出状ス。

十二日 晴

桑野芳輔着京ノ通知アリ。同人芝区兼房町虎屋ニ止宿ス。

十三日 晴

兼テ本校生徒申合セ出版ノ谷板垣諸氏ノ意見書落成セリ。晚ニ運動会ノ會議アリ。

十五日 晴

運動會費ヲ払フ。午后ヨリ芝区兼房町ニ芳輔ヲ訪フ。他行中ニテ面會セス。

十六日 (割注…午前晴、午后雨)

日曜ナリ。池ノ端山田先生ハ英学教授ヲ受ク。薄暮之小石川ニ山田ヲ訪フ。本日上野公園ニ於テ大日本壯士ノ親睦運動會アリ。

十七日 曇

秋季皇靈祭ナリ。午后四時ヨリ芝区兼房町虎屋桑野芳輔ヲ訪フ。同氏ハ筑後川事件ニ付、板並英夫、加藤新次郎、調田三郎ト去ル十日着京ス。家郷ヨリ衣類依頼セシニ付、受取旁ノ訪問ナリ。

十九日 晴

秋期大運動會ヲ催ス。会場ハ須崎弁天前ニテ総員凡三百名、午前五時ヨリ發途ス。前島校長、天野、田原、坪内、中村、高田ノ四講師來會セリ。綱引競走、劍術其他種々ノ遊技ニテ午后三時退散ス。巡查凡三十名計リ出場監督ス。

廿日 晴

本日ハ専門学校第六周年紀念日ニ付、之ヲ祝スル為メ大演說會ヲ催ス。弁士ハ穂積陳重、和田垣謙三、中村忠雄ノ三氏ナリ、午后三時ヨリ開會、午后五時閉場。終テ教員講師招待員ハ西洋料理ノ饗應アリ。生徒一同ニ柳実ヲ饗食ス。招待員ニハ大隈重信、後藤像次郎ヲ見受ケタリ。

廿一日 晴

午后ヨリ新富座ニ芝居見物ス。芸題ハ三府五港写幻灯ニテ午后二時ヨリ十時半ニ終ル。連レ人三城、庄司、大木ノ三

氏ナリ。本日渡辺作八郎ヨリ着状。三池集治監詰ノ報知ナリ。毎日新聞開停、本日ヨリ出版発行ス。午前二三十号ノ
 郵書ヲ発ス。

廿二日 晴

運動会ノ余波トテ本日迄休業。

廿三日 曇

日曜ナリ。池ノ端山田先生へ参堂。

廿四日 晴

大西孚来ル。同人ハ避暑后ヨリ土官学校ヲ出テ芝区南佐久間町十八番地山中銀六方へ宿ル。午前ヨリ来リテ薄暮ニ帰
 ル。

廿六日 晴

芝区兼房町虎屋桑野芳輔ヨリ書状着ス。郷里ヨリ依頼ノ書状ヲ封入シタルナル。

廿九日 晴

芝区兼房町桑野芳輔ニ出郵ス。

卅日 晴

日曜ナリ。

卅一日 晴

三十一号ノ葉書ヲ発ス。並三池集治監渡邊作八郎ニ出郵ス。本日牛乳代ヲ払フ。

明治二十年十一月

十一月一日 晴

午后雨ル。

二日 晴

本月月謝ヲ払フ。

三日 晴

天長節ナリ。青山練兵場開場ヲ兼テ同所ニ於テ觀兵式アリ。參覽ス。本日西ノ市ニテ各所甚賑フ。

四日 晴

家郷ヨリ書留郵書着ス。十二月分ノ学資入受領通知トシテ葉画ヲ發ス。

五日 曇

午后雨ニナル。桑野芳輔ノ一行、本日午后一時出發歸国ス。通知ノ葉書到來セリ。

六日 雨

日曜ナリ。本日ヨリ來ル八日迄三日間靖国神社秋期祭ナリ。午后ヨリ浅草鷗遊館ニ攻法会ヲ傍聽ス。同会ハ諸法学士人ノ起發サレタルモノニテ講談ト討論ヲ兼研ス。本日ハ演說者三人、討論十題ヲ討議セリ。

七日 曇

十二月分学資ヲ郵便局ニテ受取、午后ヨリ本郷区駒込団子坂へ觀菊ス。數十ノ菊人形ハ実二人目ニ驚スニ足レリ。

八日 晴

十一月分舍費及月俸ヲ校納ス。

十二日 晴

法学部親睦会ヲ神楽坂末吉亭ニ開ク。会者四十人。

十三日 晴

上野公園不忍池畔ニ秋期競馬ヲ觀ル。本競馬ハ昨十二日ト本日兩日間ニ開ク。昨日ハ聖上ノ御行幸アリ。本日ハ皇太子明宮ノ御臨覽アリタリ。本日々曜ナリ。

十九日 晴

蛸殻町草野ヲ訪フ。

廿日 晴

日曜ナリ。午前、讀井可太來ル。午后ヨリ高等中学講義堂ニ増島立良氏ノ法律講談会ヲ參聽ス。三十二号ノ郵書ヲ發ス。山田新一郎、余語勝忠ヨリ着狀。并ニ田中觀二郎ヨリ來ル廿三日旧友会ノ通知ヲ得タリ。

廿一日 晴

当校ニ於テ意見書（割注…有名家意見書集）印刷ノ件ニテ本校生徒野田卯三郎其筋ヘ拘引セラル。

廿二日 晴

右同伴ニ付、奥沢福太郎拘引セラル。

二三日 晴

新嘗祭ナリ。旧友会ヲ開会シ遠足兼紅葉見物ヲ催ス。護国寺ヨリ瀧野川王子稻荷ヨリ飛鳥山ヲ經テ上野ニ出テ薄暮歸ル。會員二十三人ナリ。

二四日、意見書ノ件ニ付、警視庁ヨリ探偵係ノ出張、今井銀一、野村勝吉、森力之助外一名拘引セラル。

廿五日 晴

午后六時ヨリ校内ニ於テ仏教大演説会ヲ開ク。弁士ニハ島地黙雷、佐治実然外ニ明出席ス。

廿六日 晴

印刷事件ニ付、木原勇三郎、志賀信三郎兩人拘引セラレ、其他幹事舎長外二人ノ生徒召喚ノ上ハ尋問セラル。

廿七日 晴

日曜ナリ。大西孚、香月春蔵来ル。頃日ハ拘引事件ニテ校中紛紜、皆見落着如何ヲ憂フルノミ。大西、香月宿泊ス。

廿八日 晴

拘引者差人物彼是其費用トシテ校内義捐金ヲ募ル。午前ニ神楽坂ニテ摘髮ス。

明治二十年十二月

十二月一日 晴

異事ナシ。

十二月三日 晴

月謝ヲ校納ス。家郷へ出郵ス。但田口音吉ノ名ヲ以テス。

四日 晴

日曜ナリ。浅草公園富士山ニ登ル。登ル此富士山トハ木ヲ以テ富士ノ形ヲ構造シ、之ヲ黑白ニ塗立テタルモノ高サ十丈八尺、基抵二百三十間、余去ハ九月頃ヨリ創造シテ十一月中旬ヨリ開山ヲ催セリ。遠望甚佳ニシテ登山客踵ヲ接ス。

本日本郷へ葉画ヲ発ス。

九日 晴

吾妻橋鉄橋成ル。本日開橋式ナリ。午后ヨリ臨觀ス。橋傍兩岸ヨリ淺草觀音前ハ人山ヲ築キ、雜鬧言フ可ラス。午后三時開橋式アリ。昼夜煙火ヲ打上ケ、花車數十、橋ノ前后ヨリ巡回シ吉原ヨリ芸妓一隊花車ヲ引テ興ヲ添フ。本橋ハ明治十八年ヨリ工ヲ起シ、漸ク本月ニ至リテ成ル。其費十三万余円ナリト云フ。

十日 晴

戸川槌次郎帰国ス。氏ハ当七月ニ本校ヲ卒業セリ。本月十二月分月俸ヲ収ム。

十一日 晴

日曜ナリ。家郷ニ葉書ヲ發ス。羅馬字会雜誌着ス。

十二日 晴

一月分學費入書留着。受領ニ付葉書ヲ發ス。

十三日

為替金ヲ受ル。神楽坂ニ兼テ袴仕立依頼ノ分本日出來ス。

十四日 晴

専門学校同攻会ニ加入ス。今夜七時頃降雪ス。「アラレ」ナリ。十分間ニテ止ム。本年初雪ナリ。

十五日 晴

家郷ヨリ着状。従一位島津久光公薨去セラルノ新聞ヲ閱セリ。

十八日 晴

日曜ナリ。午前ニ麴町区山元町一番地中谷フジ方ニ山田正修氏ヲ訪フ。同氏ハ旧藩知事公ノ儀ニテ土岐逸翁、鵜沼不

見人両氏ト廿日前ニ出京シ同家ニ止宿スルモノナリ。午后ヨリ草野氏ヲ訪フ。羽織買入及仕立方ヲ依頼ス。今夜牡蛎殻町ニ大火アリ。中島座劇場ヨリ出火シ、千六百名余軒ヲ火ク。草野氏亦類焼ニ罹ル。水天宮ノミ焼地内ニ無事タリ
 (割注…当夜府下ニ七カ所ノ出火アリ)。

一九日 晴

草野氏ヲ見廻フ。氏ハ前夜ノ難ニテ深川区西元町壹番地米倉地内ニ仮居ス。今夜神楽坂ニ同舎生ノ忘年会ヲ催ス。甘木ニ葉書ヲ發シテ牡蛎殻町ノ出火ヲ報ス。

廿一日晴、家郷ニ郵書第三十三号及毎日新聞一葉ヲ送ル。又三池集治監渡辺作八郎へ葉書ヲ發ス。蛎殻町ノ出火ヲ報スルナリ、同舎生余語勝忠横濱へ帰ル。

廿二日 雨

天木ヨリ往復葉書着ス。直ニ返書ヲ發ス。同舎生三城収治甲府ニ戻ル。

廿三日 晴

学校全体ノ忘年会ヲ神田明神内開花亭ニ開ク。

廿四日

年末ニテ本日限り閉校ス。本日午后ヨリ諸講師ノ演説会ヲ開ク。弁士高田早苗、板屋確太郎、天野為之ノ三氏ナリ。確太郎講師ハ今度初メテ講師ノ任ニ当リ明年ヨリ出校スヘキニテ今日初対面ナリ。天野ハ欠席ス。

廿五日晴、日曜ナリ。保安条例發布セラル(割注…官報号外)。

廿八日晴、午后ヨリ深川西元町ニ草野氏ヲ訪フ。保安条例發布以來府下ノ旧自由黨員其外滞京ノ壮士、該条例ニヨリ日々退去セラルル者百ヲ以テ数フ。至ル処、府下各人ノ談、皆該条例ニアラサルハナシ。其影響トシテ商店顧客ヲ減

シ一年一度ノ商況頗ル不振ナリト聞ク。

廿九日三十日 各晴

保安条例ノ余響尚未タ止マス。聞ク、卅一日迄ニ政府着眼ノ人物ハ概ネ退去シ尽スト、其数殆ント三千人ニ近シト。退去者ノ重ナル人名ヲ挙レハ星亨、尾崎行雄、林包明、片岡健吉、中島信行、山田泰造等ノ如シ。

卅一日 晴

夜間ニ入りテ少シ雪フル。然レドモ直ニ晴ル。例年ノ習慣ニ從ヒ運蕎麦ヲ賞味ス。

✕

明治二十年ノ日時本日ヲ以テ相終ルト共ニ該年ニ該ルノ記事モ亦本日ヲ以テ終ル。余ヤ十二月廿五日ヲ以テ着京シ茲ニ恙ナク一年又六日ノ日時ヲ消光シ、目出度廿年ノ歲月ヲ送テ廿一年ノ好春ヲ迎フルノ幸ニ遭ヘリ。此ニ至リ願ミテ我郷里ニ居マス天尊大慈ノ父母両君ノ起居恙ナク年ヲ回シク、廿年ノ月日ヲ送テルコトヲ知り歡喜ニ堪ヘス。茲ニ本年ノ記事ヲ終ルト同時ニ父母ノ幸福ヲ祈ル也。

明治二十二年

明治二十一年犬子年

在東京専門学校迎歲

明治二十二年一月

一月一日 晴

早起。陛下ノ天福ヲ再拜シ、西向在郷父母ノ幸福ヲ遥賀ス。本日ハ例ニ因リ府下勅奏任官ノ拝賀アリ。午前十時ヨリ築地筑前寄宿舍ニ新年ノ宴ニ預リ、同舎ヨリ五六十名福岡旧藩主黒田長知公二年賀シ、引続キ秋月藩主黒田長徳公ヲ拝賀ニ廻リ麴町区山元町ニ山田正修、鵜沼不見人両氏二年賀ス。本日ヨリ三日間、校内ニ於テ雑煮ノ饗アリ。本日ハ殊ニ祝杯ヲ饗ス。府下昨日ハ煩ニ換ヘテ一般静肅、至ル処礼服ノ男女靴ヲ着セラレ、馬車人力踵ヲ接シ、春陽氣市街ニ溢フ。

二日晴、午前ニ北山伏町榊原氏二年賀ス。然ルニ同氏ハ客月一二月判事試験ニ及第シ長崎県下福江支庁詰ヲ拝命シ去ル三十一日山伏町ヲ發シテ、芝区佐久間町ニ兩三日間滞宿スト聞ク。午后六時ヨリ佐久間町三丁目十八番地信濃屋ニ同氏ヲ訪問シ、年賀並離辭ヲ述フ。氏ハ明后四日出立ノ筈ナリ。午后一時ヨリ外神田秋葉原相模屋ニ旧交会ノ新年宴会ヲ開ク。開者廿五人。本日農林学校北山、甲府ノ三城、横浜余語、千葉今井二年賀葉書ヲ發ス。北山ヨリ年賀状來ル。

一月三日 晴

横浜余語ヨリ葉書年詞状着ス。午后ヨリ本郷西片町へ土方、深川日元町へ草野二年賀トシテ参堂ス。三城収治ヨリ着状。

一月四日 晴

火消出初式アリ。国元へ年詞状第一号並画ヲ送ル。又年始状トシテ加藤、渡辺、藤田、田口、平佐政吉、岡部、矢野（割注・真三郎）、熊手、大和戸川桑野芳輔ニ出状ス。及ヒ福岡ノ有田、正木両氏ニ出ス。

一月五日 晴

三城及今井ヨリ年賀状着ス。

一月七日 晴

觀兵式アリ。草野義三郎深川西元町ヨリ日本橋区高砂町三番地ニ移転ノ報アリ。

一月九日 晴

甘木ヨリ書留並淺太郎ヨリ年始状着ス。第二号ノ郵書ヲ送ル。

一月十日 晴

平佐政吉、梅野信吉、戸川槌次郎、上野己之吉ヨリ年始ノ葉書着ス。午前ニ麴町区山元町ニ山田正修氏ヲ訪フ。不在ナリ。

一月十一日 晴

本日ヨリ開講ス。午后ヨリ校長講師ノ演説会アリ。弁士天野為之、高田早苗、前島密ノ三氏。一月分ノ為替受取ル。月謝月俸ヲ納ム。渡辺作八郎三池集治監ヨリ年始状着ス。同舎生余語帰校ス。

十五日 晴

日曜ナリ。

十八日 晴

熊手嘉久年、大和義雄、加藤謙次、有田延ヨリ着状。皆年始状ナリ。

二十日

仏教演説会アリ。弁士島地黙雷、佐治実燃ノ両氏。上畑、村上藤茂氏ヨリ着状。

廿一日 晴

スイントン万国氏ノ内試験アリ。

廿日 晴

日曜ナリ。日本橋区高砂町草野ヲ訪フ。義三郎氏ハ去ル十七日ヨリ大阪ヘ行キタリト聞キタリ。兼テ依頼ノ羽織出来ス。第三号郵書並熊手嘉久年、江藤茂ヘ発郵ス。

廿三日ヨリ廿八日迄異事ナシ。

廿九日

日曜ナリ、尚剛館開館式ニ臨ム。該館ハ客冬移転シテ牛込新小川町ニアリテ今回ハ移転開校式ニ三周年期ノ祝ヲ兼ねタリ。

卅日 晴

光明^(マツ)天皇祭。第四号ノ葉書ヲ発ス。

卅一日 晴

同舎ニ八木彦太郎来ル。

明治二二年二月

二月一日 晴

二月分学資入書留着ス。本日大隈重信伯外務大臣ニ任命セラル。

二日 雲

午后四時ヨリ雪降り、午后七時頃ニ止ム。積雪僅ニ道路ヲ覆フノミ。本年ノ初雪ナリ。昨日、着書留ノ受領証ヲ出ス。

三日 晴

郵便局ニ於テ為替ヲ受取ル。大隈伯任命ニ付新聞紙上頗ル轟々タリ。

四日 雪

朝ヨリ終日降ル。

五日、日曜ナリ。雪降ル。来ル十五日ヨリ試験初リノ報知トシテ張出シアリ。大西孚来ル。

十一日 晴

紀元節、家郷ニ葉画ヲ発ス。

十二日 晴

日曜ナリ。旧曆正月元日ナリ。田中篤三郎来ル。氏ハ兩三日前ニ初メニ出京シタリ。

十三日 晴

麴町区山本町、山田正修氏ヲ問フ。蓋シ明十四日ニ鵜沼君ト共ニ帰国ノ通知ヲ得タレハナリ。

十五日 晴

Reading 及習字ノ試験アリ。

十六日 晴

万国史及經濟ノ試験アリ。

十七日 雪

三城収治、昨十六日帰校ス。

十八日 雪

組合法試験。

十九日 晴

日曜ナリ。毎日新聞本日限り相止。

廿日 晴

身分法試験。

廿二日 薄雪

売買法試験。

廿三日 晴

私犯法試験。三城収治卜宿ス。

廿四日 晴

治罪法試験、羅馬字会廿一年度会費ヲ払フ。東京郵便局出火。

廿五日 晴

代理法試験、本日限りニテ春期試験皆済。明日ヨリ来ル三月十日迄閉校。余語勝忠、横浜へ帰ル。

廿六日 雨

日曜ナリ。

廿七日 晴

甘木ニ葉画ヲ発ス。試験終結ヲ報スルナリ。

廿九日 晴

書留三月分学資入着ス。葉書ヲ以テ到着ヲ報ス。山内弥栄ヨリ差状ス。

明治二二年三月

三月一日 晴向島梅屋敷ヨリ亀戸へ觀梅ス。庄司永成、今井精次郎、三城収治ト同行。

三日 晴

三月分爲替受取、並貯金預ル。三月分月謝月俸校納。

四月 雨

五日 曇

六日 雨

七日 晴

八日 雨

九日 晴

第五号郵便ヲ發ス。余語ヨリ着状。

三月十日 晴

試験点数揭示。山田正隆氏書状。

十一日 晴

日曜ナリ。五大法律学校討論会。高等中学義堂ニ開ク。傍聴ス。該会ノ初会ナリ。

十二日 晴

本日迄本校閉休、羅馬字親誌着。

十三日 晴

開校。

十七日 晴

文法未済試験執行。

十八日 晴

日曜午后ヨリ草野ヲ訪フ。同氏ハ客月中旬ヨリ転宅シテ神田区松枝町十七番地へ移レリ。

廿日 晴

春季皇霊祭ナリ。加藤、渡辺及家郷へ第六号ノ郵書ヲ発ス。

廿三日 晴

同舎生庄司永成下宿ス。

廿四日 晴

同攻会演説アリ。午后六時ヨリ厚生館ニ婦人矯風会幻燈会ニ赴ク。

廿五日 晴

日曜ナリ。

廿八日 晴

仏法演説会アリ。島地黙雷、平松某、外一人。

廿九日 晴

四月分、為替入書留着直ニ葉書ヲ発ス。

卅日 晴

為替金郵便局ニテ受取。

卅一日 晴

謝月俸上納。

明治二二年四月

四月一日 晴

旧交会開会。尚会ニハ里村勝次良高等師範学校卒業ニ付祝宴ヲ兼ネテ神田秋葉原相模屋ニ開ク。幸ニ兩三日前ヨリ井上取先生出京ニ付、本会ニ招待ス。明日ヨリ井上先生日光參訪ニ付随行ヲ思立、今夜麴町区内山下一丁目四十二番地池田兼吉ナル先生ノ宿所へ泊ス。

四月二日 晴

午后五時ヨリ日光へ出立ス。井上先生同行者飯田弥助及余三人ナリ。午后四時日光鉢衣町和泉屋金平方へ宿ス。昨夜郷里へ葉画ヲ發ス。又桑野慶次郎帰京後へ委託ノ書状并品物ヲ領收ス。

四月三日

晴、午前ニ東照宮並大猷院殿ヲ拝觀シ、午后一時ヨリ帰路ニ付キ宇都宮池上町丸屋治三郎方へ泊ス。

四日 晴

宇都宮出発、午前十一時帰棧。郷里へ第七号郵書ヲ發ス。

日晴、井上先生並同行者発足、帰郷ス。同氏ハ帰郷ノ際伊勢參宮シテ京都、大阪、讃岐及ヒ安芸ノ宮島へ立寄ノ筈。

八日 晴

日曜ナリ。

九日 晴

此頃桜花爛漫。上野、向島、其他満開ナリ。

十一日午前八時迄雨ル。

但シ昨日午后ヨリ降続キシナリ。午前八時ヲ経テ晴ル。本日ハ当校春季大運動会ヲ飛鳥山ニ開ク。会員三百余名。八時頃ヨリ発シテ、午后五時、帰宅ス。運動中、楽隊ヲ以テ勢声ヲ添フ。雨晴レタレハ、運動活潑十分ノ觀ヲ尽シテ歸ル。本日ヨリ三日間休業。飛鳥山ハ桜花爛漫タリ。

十二日 晴

午后ニ曾テ願下置タル貯金ヲ受取ル。一時ヨリ春木座へ觀劇ス。

十三日 晴

羅馬字雜誌着ス。

十四日 晴

午后ヨリ工科大学へ羅馬字會総集會ニ赴ク。演說者伊太利公使マーチノ司法次官、三好退藏、C S イビー氏及ヒ大隈伯爵ノ筈ナリシカ、大隈氏ハ差支ヘアリテ欠席セリ。第八号郵書ヲ發ス。

十五日

日曜ナリ。松杖町ニ早野ヲ訪フ。

十九日 晴

三城収治歸京ス。

廿二日 晴

日曜ナリ。

廿四日 曇

第八号葉書ヲ發ス。頃日天氣不順。雨天甚多シ。

廿八日 晴

五月分為替人書留着ス。

廿九日 雨

第九号葉書ヲ發ス。昨日着書留ノ受取ナリ。本日日曜ナリ。

卅日 雨午后晴

大隈伯爵邸ニ於テ園女会ノ催アリ。会者四百五十名計ナリト云フ。郵便局ニ於テ為替ヲ受取り、午后ニ官報号外ノ發布アリ。内閣ニ大變動ヲ生ス。初メテ枢密院ヲ置キ、伊藤前總理大臣ヲ以テ其長トス。黒田伯爵ハ總理大臣トナリ、在野ハ勝安房、河野敏鎌出テテ、枢密院顧問官トナル。

明治二二年五月

五月一日 晴

此頃躑躅満開ニテ大久保ノ園内遊客群ヲ為ス。

五月二日 晴

月謝月俸ヲ校納ス。

全四日 晴

本日ヨリ毎日新聞ヲ購読ス。

六日 日曜、晴ナリ

本日ヨリ三日間九段招魂祭アリ。本日競馬ヲ遊観ス。

九日 晴

九段招魂祭角力アリ。七月八日雨天ノ為メ本日ニ順延シタリ。本日家郷へ葉画ヲ発ス。

五月十二日 晴

九段招魂祭ニ付花火アリ。十日、十一日雨天ノ為メ本日ニ順延ス。薄暮ニ尚剛館へ撃剣ニ行ク。

十三日 晴

日曜ナリ。政学部講義録中刑法及ヒ法学通論ヲ購求ス。

十六日 晴

政学部講義録申込第廿五号ヨリ賄改革「ストライキ」ヲ起ス。

廿日 晴

日曜ナリ。高等中学ニテ五大法律学校討論会ヲ開ク。

廿二日 晴

地震甚強シ。今夜神田区鍋町ニ大火アリ。家数凡ソ九百戸ヲ消失ス。

廿三日 曇後雨トナル

神田松杖町草野へ火事見廻ニ赴ク。

廿七日 晴

日曜ナリ。戸川槌次郎ヨリ着状ス。

廿九日 晴

六月分為替人言留着ス。戸川槌次郎ニ返書ヲ發ス。

卅日 晴

六月分為替金受取家郷二十一号ノ郵書ヲ發ス。六月分月謝ヲ校納ス。

卅一日 晴牛乳代ヲ払フ。

明治二二年六月

一日 晴。

二日 晴

新聞紙ヲ払フ。

三日 晴

日曜ナリ。昨夜富士山ニ横死人アリ。

六日 晴

神田松杖町ニ草野氏ヲ問フ。

十日 晴

日曜ナリ。中山従一位忠能公薨ス。

十二日 晴

中山侯ヲ音羽護国寺ニ葬ル。

十七日 晴

日曜ナリ。振気会ニ擊劍修業者来ル。渡辺源十郎。

廿日 雨

地文学ノ兼修試験アリ。

廿一日 晴

兼修科万国史ノ試験アリ。

廿三日 雨

同書書取ノ試験アリ。家郷ニ葉書ヲ發ス。

廿四日 晴

日曜ナリ。

廿五日 晴

読方及作文ノ試験アリ。本日ニテ兼修試験相済、学校規則改正發布ス。

廿九日 晴

近來梅雨中ニテ晴、曇常ナラス。雨又從テ多シ。家郷ヨリ七月分爲替金書留着ス。第十二号ノ郵便書ヲ發ス。

卅日 晴

新聞紙並ニ牛乳代ヲ払フ。本日三原保太郎、暑中休暇ニ付帰省ス。廿一年度学校人名簿出来。

卅一日 晴

日曜ナリ。

明治二二年七月

七月一日 晴

郵便局ニ於テ為替金受取、月謝月俸ヲ払フ。

七月三日 晴

定期学業試験ノ揭示アリ。

七月六日 晴

治罪法試験。

七月七日 曇

委託法試験。

七月八日 晴

日曜ナリ。

九日 晴

代理法試験。

十日 曇

売買法試験。

十一日 晴

動産法及会社法試験。本日限りニテ試験相済。余語勝忠、横浜へ帰ル。

十四日 晴

卒業生離杯トシテ両國中村楼ニ於テ満校ノ親睦会ヲ開ク。家郷ヨリ郵書発ス。

七月十五日 晴

第十三号ノ郵書ヲ発ス。試験ノ報告其他要事アリ。

七月十七日 晴

来ル十五日磐城国磐梯山破裂シテ噴火スルノ報ヲ得タリ。死者五百余人、負傷者八百余人開闢以来ノ一大変事ナリ。

七月十九日 晴

山岡鉄舟居士死去ス。皆人之ヲ惜ム。本日郷里ヨリ書留着（割注…旅費金ノ為替券入）

七月廿日 晴

本校卒業式ナリ。来賓ノ重ナルモノハ大隈外務大臣・同夫人、河野敏鎌、辻新次、鳩山和夫ヲ初メ二百余人。海軍楽隊一小隊ヲ招テ、奏樂。午后四時ヨリ開場ス。卒業生凡テ五十五名証書並ニ賞品ノ授与。終テ前島校長ノ演説。卒業生総代平野法象氏ノ答辭、鳩山和夫、高田早苗両氏ノ演説アリ。今回ハ大隈伯夫人ヨリ学校書籍室へ金百円及ヒ卒業生中十五名へ賞品トシテ、書籍ヲ寄送セラレタレハ本日一同へ賞与セラレタリ。本日ヨリ閉校。来ル九月十一日閉校ノ筈。

牛込郵便局ニテ為替受取。郷里へ葉書ヲ発ス。書留ノ受取ナリ。

七月廿三日 雨日晴ナリ



写真3 「〔東京専門学校関係者の写真〕」（篠田ソノ子氏寄贈篠田克己旧蔵資料5）

頃日炎威酷烈。人畜殆ント堪へ難キノ処。本日雨降り候為メニ、消暑ス。磐梯山ノ詳報追々ト各新聞ニ上リ、天下ノ一問題一談柄トナリシ。各新聞社ハ義捐金ヲ募テ、貧民ヲ救ヒ、学者ハ現地ニ臨テ研究ノ企ヲ為ス。上野発着ノ汽車、為ニ雑鬧シテ、日々困雜ヲ極ムルニ至ル。

七月廿三日 雨

本日ヨリ富士山ノ祭ナリ。雨天ニテ人皆困レリ。

廿四日 又雨

士官学校生尾野実信、井口友五郎、森部静夫ノ三氏卒業ニ付祝杯ノ招キニ預レリ。然レトモ来ル廿八日ヨリ帰省ノ企アレハ為メ辞セリ。

廿五日 曇

頃日磐梯山一件ノ為メ人心恟々。噴火ノ兆報、所々ヨリ来ル。曰ク信州浅間山鳴動セリ。佐渡ノ某山モ亦震鳴シ、人々薄氷ヲ踏ムノ思ヒアリト。又報シテ曰ク、富士山水渴レテ、例年ト大ニ趣ヲ異ツテオリ、必スヤ鳴動ノ前兆ナラント。之レカ為メニ登山人例

年ニ比シテ尤僅少ナリシ由。余モ初メ登山ノ企ヲ懷キシカ此凶兆及他ニ一ノ事情アリテ之ヲ止メタリ。

廿六日 曇

富士山ノ祭本日ヲ以テ終ル。凡テ四日。昨日井上伯出テテ農商務大臣ト為ルノ新聞ヲ得タリ。愈々廿八日發足。帰途ヲ確定セリ。